

## 「被爆 74 周年 2019 平和行動 in 広島・長崎北海道統一代表団」を派遣

1945 年 8 月、広島と長崎に投下された 2 発の原子爆弾が、二十数万人の尊い命を奪いました。そして、その後も多くの被爆者が原子爆弾の爆発の記憶と、放射線障害に苦しんでいます。

連合は、核兵器の廃絶と恒久平和を実現するため、唯一の被爆国のナショナルセンターとして「ノーモア・ヒロシマ」「ノーモア・ナガサキ」の声を全世界に訴える平和行動を原爆が投下された 8 月 6 日・9 日にあわせ広島と長崎で開催しています。

連合北海道は、今年も、8 月 4 日～9 日の日程で、連合北海道・原水禁北海道・北海道友愛 KAKKIN による「北海道統一代表団」により、広島・長崎での集会やピクニックなどの平和行動に参加しました。



8 月 5 日の平和ヒロシマ集会では 逢見連合会長代行が、そして 8 月 8 日の平和ナガサキ集会では 神津連合会長が、ともに、一昨年に国連で採択された核兵器の保有や使用を禁止する「核兵器禁止条約」に否定的な態度をとり続ける日本政府に対し、早期署名・批准と、唯一の戦争被爆国として核保有国と非核保有国との具体的な「橋渡し役」を求めるとともに、国連に対し、2020 年に開催される NPT 再検討会議で核兵器廃絶の着実な道筋についての合意を訴えました。

そして、米国とロシアの核戦略の問題等を指摘し、世界が積み重ねてきた努力の成果が次々と壊され、核兵器が使用される危険性が高まっていると、きわめて強い危機感を表明。核廃絶に向けた一人一人の力・市民社会の力が世界を動かすこと、その先頭に連合運動が立つ旨を主催者挨拶で述べました。

また、ナガサキ集会では第 22 代高校生平和大使が紹介されました。連合北海道と退職者連合で構成する北海道高校生平和大使派遣実行委員会を選出した、阿部一羽さんと小出侑輝さんも仲間とともに登壇。被爆者や戦争体験者の方々から平和のバトンを受け継ぎ世界に広げていく決意を表明しました。

このナガサキ集会ではオキナワ集会・ヒロシマ集会・ナガサキ集会と引き継がれてきたピースフラッグが根室集会へと引き継がれます。

北海道を代表して登壇した藤盛 連合北海道政治センター幹事長は「いま、沖縄・広島、そして長崎の思いのこもったフラッグを北海道が引き継ぎました。北方領土集会が開催される北海道・納沙布岬から北方領土までは、ここ長崎の大村湾の対岸より近い。ぜひ、多くの皆さんに現地にお越しいただき、すぐそこに『見える』故郷に帰ることができない、その不条理を肌で感じていただきたい」と述べ、連合長崎から連合北海道へ「連合平和運動の象徴・ピースフラッグ」を引き継ぎました。



武器を持たない多くの市民が一瞬のうちに命を奪われ、そして被爆せざるを得なかった8月6日、そして9日には広島・長崎の爆心地で「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」が開催されており、座席はありませんが自由に参加もできます。



式典では市長がともに「平和宣言」で被爆者の詩を取り上げて核兵器の非人道性を改めて世界に語り、核保有国・世界の為政者には核軍縮の義務と被爆地を訪れ被爆の実相を心に刻むことを求め、日本国に対しては唯一の戦争被爆国として「背を向けるな」と訴えました。そして、なにより市民社会の力の結集に大きな評価と期待のメッセージを發しました。

この地にこの日に訪れた参加者は、集会や諸行動を通じそれぞれ学習を深めました。核兵器の廃絶と恒久平和を実現に向けて、労働運動を初めとする市民社会の力が世界を動かすことも再確認しました。

連合北海道はこれからも核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、職場や地域における平和運動に粘り強く取り組んでいきます。

特に本年は、核兵器廃絶に向けた機運が世界中に高まっている今こそ、連合・原水禁・KAKKINの3団体が取り組む、2020年NPT再検討会議での「核兵器廃絶への着実な合意」を求め「核兵器廃絶1000万署名」に積極的に取り組んでいきます。

※昨年に引き続き、独自行動として鹿児島県の知覧特攻平和会館及び周辺遺跡を訪れ学習を深めました。